大田原文化

第31号

大田原文化協会

令和4年度

目次

一　ごあいさつ　大田原文化協会会長　田中　和夫　1
二　大田原城主大田原晴清宛徳川家康・秀忠書状との邂逅　大田原市黒羽芭蕉の館学芸員　新井　敦史　2
三　文芸部
短歌部門　大田原短歌会　藤沼緋紗子　4
俳句部門　大田原俳句会　中山　逍遥　6
風の会　直篤　正美　8
秋桜の会　森　加名恵　8
秋桜の会　上田　耕里　9
美術部長　安達　信悟　10
四　美術部
第三十七回大田原文化協会美術展
たかが陶芸、されど陶芸　唯一無二の作品作り　陶芸　油井　正明　12
大田原油絵クラブのご報告　大田原油絵クラブ　蜂巣　貞美　14
三年ぶり　竹工芸　阿久津正弘　16
『脱兎の如く』コロナ去れ!!『健康寿命百歳を目指して』　色紙水彩画　君島　真二　18
みず絵会は五十年　みず絵会　滝沢　年子　20
お花と出会い　華道　増子　梢風　20
五　茶道部
安心してお茶会ができるのはいつ　茶道部　瀬尾　清子　20
六　盆栽園芸部
盆栽園芸部門　盆栽・園芸部長　平山　正彦　21
七　ステージ部
ステージ部門活動報告書　ステージ部門長　花柳喜乃治　24
剣詩舞道　遊月流吟舞会恵月会　三浦　恵月　25
宝生流謡曲（うたい）　大田原宝友会　蜂巣　貞美　26
とらふの駒の歩の心　大田原市将棋愛好会　矢板　清勝　27
八　囲碁将棋部
九　文化協会事務局より　事務局　28
十　編集後記　広報部　29

題字　書家　酒井真沙　　表紙　盆栽・園芸部「創立五十周年記念盆栽展」

ごあいさつ

大田原文化協会
会長　田中　和夫

去る一月二十八日、重要無形文化財保持者（人間国宝）の竹工芸家、勝城蒼鳳氏が逝去されました。享年八十八歳でした。

大田原市の文化・芸術にとりまして、とても大きな損失です。

勝城氏は平成十七年に重要無形文化財『竹工芸』保持者として認定されました。

そして本紙の第十四号に、氏の認定を記念してのインタビュー記事が掲載されました。

その時の氏の言葉に、次のものがありました。

「私は、大田原市の文化協会発足の時から、この協会と共に歩んで参りました。（中略）文化協会員になり、いろいろな行事に参加しました結果によって、今日があるのだと思っております。文化協会は、私を育てて下さった会であり、創作活動の故郷なのです。これは一生忘れられないことなのです。」

氏が大田原文化協会を大切に思っていらっしゃった事が良くわかる言葉でした。

また勝城氏には、平成二十九年度発行の本紙第二十六号に特別寄稿を頂きました。

とても多くの業績を残された方にもかかわらず、それらを誇るわけでもなく、淡々と大田原文化協会の結成の経緯から、現在に至るまでの道のりを、竹工芸を中心に記述して下さいました。

この事からも、謙虚で実直な人柄が手に取るように解る気がします。

今までの大田原市の文化芸術発展へのご尽力に、心より感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

◇　◇

昨年はもうひとつ、悲しい出来事がありました。栃木県文化協会長の上野憲示氏が、十月十一日にお亡くなりになった事です。

十月十六日に栃木県総合文化センターにおいて、栃木県芸術祭『吟詠剣詩舞の祭典』が開催されましたが、式典におきまして栃木県文化協会長のご挨拶をいただくことになっておりました。

しかしながら前述のとおり、上野会長は数日前に逝去され、文化協会事務局長がその挨拶文をそのまま代読されました。何とも切ないご挨拶となってしまったことを、思い出します。

氏は美術史家・美術評論家として、日本でも卓越した研究者でありました。やはり栃木県の文化芸術にとっての大きな損失であります。

大田原市文化協会連絡協議会として、電報にて哀悼の意を表しましたことを、ご報告申し上げます。

◇　◇

新型コロナウイルス感染症も、日本で最初の患者が出てから三年が経ちました。

三年前はただただ恐れ、まさに殻の中に閉じこもるような状態でしたが、この三年間で知見も蓄積され、どのように対策すれば良いか次第に身についてきました。

そして停滞は、我々の文化芸術活動にとって致命的であることを思い知った方が多いのではないでしょうか。

まだまだ安心は出来ませんが、正しく恐れ、十分な対策の元に文化芸術活動を進めて頂きますよう、お願い致します。

大田原城主大田原晴清宛徳川家康・秀忠書状との邂逅

大田原市黒羽芭蕉の館学芸員
新井　敦史

大田原城主大田原晴清（一五六七～一六三一）に宛てた徳川家康（一五四二～一六一六）の書状四通及び徳川秀忠（家康三男、一五七九～一六三二）の書状二通については、長い間、正文（原本）の所在が不明でした。それでも、江戸幕府が編纂した『譜牒余録』（独立行政法人国立公文書館蔵）などにそれぞれの写が載っているため、従来、研究者はこれら写に依拠してきたのです。筆者も、二〇〇〇年に『関ヶ原合戦と大関氏（図録）』、二〇〇四年にその改訂版を、そして二〇一五年に『関ヶ原合戦と那須衆（図録）』を執筆・編集した際などは、これら写を活用しました。特に家康書状二通と秀忠書状一通は、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原合戦前夜、上杉軍押さえのために大田原城に籠城していた晴清宛に発給されたもので、他の三通も含め、織豊期の大田原氏や那須衆研究にとってきわめて重要な史料と言うことができます。

これら六通の内容について、①正月二十五日付徳川家康書状は、大田原晴清から年賀として紙百帖と雉十番を贈られたことに対する礼状で、天正十九年（一五九一）～慶長五年に比定されます。

②四月十五日付徳川秀忠書状は、秀忠を訪問して早々に帰った晴清から時を移さず鶴が贈られたことに対する礼状で、文禄二年（一五九三）～慶長五年に比定されます。

③（慶長五年）六月二十二日付徳川秀忠書状は、奥州との境目の情勢に関する晴清からの度々の注進を謝した上で、奥州方面への移動制限を厳命するよう要請する内容となっています。

④（慶長五年）八月二十五日付徳川家康書状は、晴清に対して自身の上方への出馬延期と江戸滞陣を伝え、かつ上杉軍南下の際の注進を要請して、その場合には自ら出馬の上、これを討ち果たす所存としています。

⑤（慶長五年）九月十二日付徳川家康書状は、晴清からの奥州・那須方面の情勢に関する注進を謝した上で、上杉軍に対する警戒に油断無く当たるよう要請し、自身の十三日岐阜着陣との動向を伝え、早々に石田三成ら西軍を打倒し吉報を送る所存としています。

⑥正月十三日付徳川家康書状は、晴清に対して奥州へ鷹を求めるため使いを派遣することを伝え、いつも鷹輸送のために大田原氏領内を通行する際、同氏が伝馬などの手配を行っていることを謝する内容で、慶長九年（一六〇四）～元和二年（一六一六）に比定されます。

これら六通の正文の所在について、思わぬ方面から朗報がありました。二〇一六年七月十四日、職場（大田原市黒羽芭蕉の館）の筆者のもとに東京大学史料編纂所の村井祐樹氏から電話が入り、兵庫県豊岡市内の個人宅で史料調査をしていたら、その中に件の六通の正文が含まれていたというのです。所蔵者から豊岡市教育委員会への史料調査依頼があって、史料編纂所による調査となった由で、これら六通については、同市教育委員会に連絡すれば、所蔵者を紹介していただけるとのことでした。

大変なビッグニュースでしたが、前年秋に前記『関ヶ原合戦と那須衆（図録）』を編集・発行したばかりというタイミングゆえ、次にこれらの文書を活用できる機会がいつになるのか俄かには思い付かず、月日が経ち

ました。そんな中、二〇一八年四月十二日に「学芸員会議」（本市の歴史系資料館等に勤務する学芸員五名による会議）を開いた際、重藤智彬氏（本市那須与一伝承館学芸員）から『兵庫県政百五十周年記念先行事業　特別展「ひょうごと秀吉―近年の新紹介資料を交えて―」（図録）』（兵庫県立歴史博物館編集・発行、二〇一七年）の紹介を受けました。同書には件の文書六通のカラー図版が掲載され、釈文（古文書の文字を楷書体に直したもの）・解説や史料調査の経緯等が記されていたのです。重藤氏から同書を借りて熟読したところ、その内五通の釈文には一部ながら誤字・脱字が含まれており、もう一通も含めて年代比定や人物比定に関して多少なりとも言及できる余地があることがわかりました。これらの原本調査を行い、改めて史料紹介の一文を執筆する意義があると思うに至ったのです。

そこで、四月二十一日に栃木県立博物館会議室で開催された栃木県歴史文化研究会常任委員会の席上、同会が毎年編集・発行している会誌『歴史と文化』への「史料紹介」原稿掲載を申し出たところ、他の常任委員の方々から賛意が示されました。同時並行的に豊岡市教育委員会を通して進めていた史料所蔵者とのメールや電話での交渉により、五月十六日に重藤氏と共にご自宅に伺い、原本調査をさせていただくことの了解を得ることができました。

五月十五日、東京駅で同氏と合流の上、新幹線で京都駅まで行き、そこから山陰本線特急に乗り、福知山駅で乗り換え、夕方、豊岡駅到着。予約のビジネスホテルにチェックイン後、二人でぶらり歩き居酒屋に入って、「鯖のへしこ」などを賞味し、英気を養いました。

翌十六日午前、タクシーで所蔵者宅を訪れ、ご挨拶の上、六通を含む古文書群に関して、所蔵者の曾祖父が昔、東京で入手したものといった話を承りました。その後、早速原本調査に移行。一通ずつ保存状態や紙質を確認し、筆勢や本文・花押の墨をチェック、法量を計測し、それらをノートに鉛筆でメモして、写真撮影に及びました。

調査を完了し、お昼時分になったので、所蔵者から薦められた店に入り、二人で「出石皿蕎麦」を味わい、私は瓶ビールも楽しみました。食後に出石城跡を見学し、帰途につくや、列車内で又候缶ビールの栓を開け、〈徳川の文書解読山笑ふ〉・〈缶ビール開ける合図の発車ベル〉の二句を詠み、こっそり手帳にメモしました。

このあと執筆した史料紹介「下野国大田原城主大田原晴清宛徳川家康・秀忠書状について」原稿は、『歴史と文化』第二七号（二〇一八年）に掲載されるところとなりました。拙稿で紹介した六通は、さらに『戦国遺文下野編第三巻』（荒川善夫・新井敦史・佐々木倫朗編、東京堂出版、二〇一九年）にも収載されています。これら拙稿や史料集が戦国時代～江戸時代初期の那須衆研究を些かでも前進させることにつながるならば、望外の喜びです。

出石城跡

短歌部門

大田原短歌会

藤沼　緋紗子

十二月の茶室の掛け軸は「無事」をかけることが常でありますが、十二月十四日の稽古時に「年の瀬や水の流れと人の身はあした待たるるその宝船」を掛けました。

四十七士のひとり大高源吾の付句と俳諧師の宝井其角の発句による連歌です。

連歌は一首の短歌を上の句と下の句に分けて二人以上で詠み合い、上の句と下の句を次々と鎖のように繋げていく貴族の遊びだったそうです。

吉良上野介を斬りつけ、浅野は切腹となりお家も断絶となった翌年の元禄十五年十二月十四日に赤穂浪士四十七名は、吉良邸へ討ち入りを果たしました。

赤穂浪士に想いを馳せながらのお茶のお稽古となりました。

赤穂浪士が眠る泉岳寺は、高輪に住んでいたころ、散歩コースであったことも懐かしく思い出されます。

阿久津　照靖

増減を繰り返しつつコロナ禍の
　終息みえず月日流るる
咲かぬものと思ひて居たる福寿草
　二つ開きて今日は嬉しき
豊かなる春の日差しの窓の外
　小さな虫も動いていたり
蕗味噌も己が裁量で作りつつ
　独り暮らしの愉しみとなる
三連休も老いし我には無関係
　炒め物つくり独り楽しむ
太陽が沸かせし風呂に浸りつつ
　我は恙なく卒寿こえゆく

礒　セツ

年はじめ会話賑わう四世代
　主役は曾孫のアニメの話
冬枯れの庭に蝋梅咲き初めて
　ほのかな香りこころも和む
やわらかな春の光を浴びながら
　舗装の隙間すみれ花咲く
満開の花のトンネル通り抜け
　萎えしこの身に元気授かる
風に乗り甘い香りの木犀の
　満ちたる庭は至福の処
寝返りてまた寝返りても眠れない
　深夜便聴き眠りを待てり

長嶋　禎子

淋しくて何する気力も湧かぬまま
　たちまちにして夫の三回忌
大寒の夜空に満月酷酷と
　見惚れて心吸い取られたり
脚萎えて杖を頼りて窓際に
　今を盛りの蝋梅を見る
限りなくわびしき独りの日々にして
　卒寿の手習い何か始めん
高齢者の運転テストを受けに行く
　まずまず合格生きる力に
収穫の喜びのように豆の葉の
　さわさわ揺れて秋に溶けゆく

石井　恵子

早朝の窓一面の朝顔の
　すがすがしさに今日も癒され
農に生き家族を支えた寡黙な母
　今ならわかる茶色のその手
長年の夫の病の対応に
　付けるノートも八冊目となる
軽口をたたくことさえ憚られ
　嫁を貰いし我が子なれども
夫共に雷鳴抄を切り貼りて
　流れゆく日々記憶にとどめ
極寒の朝葱洗うそのそばに
　福寿草の可憐に咲きおり

大久保　園恵

杉林日差し遮る山門の
　石段登れば虎の尾の咲く
ぴちゃぴちゃと羽音震わす音のして
　覗いてみればヒヨドリの沐浴
ウロコ雲空いっぱいに広がりて
　物干竿にアキアカネ群れて
夕暮れて木戸の隙間に上る月
　芋に穂芒俄かに飾る
今日もまたコロナ習慣身につかず
　施錠の後にマスクを取りに
年の瀬に裸木の落ち葉集めれば
　黒き地面に福寿草の芽

吉田　モト

歳毎に足の弱りて杖だより
　弾まぬボールのような生きざま
躓いてすってんころりん怪我もせず
　転び上手の老いの巧妙
餌播けば庭に諸鳥あつまりて
　啄む見るは日課の一つ
雑草のはびこる畑の草むしり
　たちまち枯れて気持ちのいい程
つばめの子飛ぶ練習に余念なく
　真夏の空をじっと見守る
田植え終え苗の見守り失業か
　野菜作れと畑の声す

藤沼　緋紗子

遠く住む娘と交わすラインメール
　ひと時なれど心の通ふ
二つの児鬼のお面に泣きわめく
　面を取ってもまだ泣き止まず
無慈悲なる悪魔の所為を繰り返す
　独裁者（プーチン）の胸思い憚る
もどかしや今この時も罪もなき
　尊き命の蹂躙されて
ひまわりの花は朽ちゆくも新しき
　命をぎっしり実らせており
山積みの机の書類に目を伏せて
　今宵はノエルの夜を送れり
五歳児のお辞儀する手の可愛さよ
　我が皺の手は悲しかりけり

俳句部門

部門全体を通して

◎第三十三回黒羽芭蕉の里全国俳句大会

自由題の部

黒田　杏子　選　特選

早蕨に木洩日与ふ八溝杉　中山　逍遥

坂本　宮尾　選　秀逸

鮎待ちの釣人集ふ橋の上　高山　誠

速水　峰邨　選　推薦

嬰眠るところもっとも淑気満つ　高宮　聆子

席題の部

黒田　杏子　選　入選

那珂川は蛍火の里わが故郷　久保田晋一

蛍飛ぶ児らが除草の水路かな　高山　誠

中村　和弘　選　特選

献体の慰霊碑おおう青葉かな　鍋谷まさ子

佐怒賀　正美　選　特選

蛍飛ぶ児らが除草の水路かな　高山　誠

速水　峰邨　選　推選

献体の慰霊碑おおう青葉かな　鍋谷まさ子

◎第七十四回那須地区芸術祭俳句大会

今年は大田原市が主催、且つ俳句担当地区で、十月十五日（土）生涯学習センターにて開催されました。

・特別講演

「曾良の旅日記で辿るおくのほそ道」

那須野路

俳人協会県副支部長　蓮實　淳夫　氏

自由題の部

蓮實　淳夫　選　入選

終戦日父の遺品のハーモニカ　森　加名恵

燭涙のしめやかに垂る新盆会　斉藤　民恵

地区選者　入選　三位

夏大根母の小言の辛き味　山田　勝美

八位

生まれ持つ家の重みや蝸牛　伊藤　草秋

席題の部　入選　四位

兄貴には勝てず仕舞や力草　中山　逍遥

五位

とんぼとぶ空に階段あるやうに　森　加名恵

七位

今日の空今日の過ぎゆく蜻蛉かな　直笠　青析

1．大田原俳句会　　中山　逍遥

月一回参加者投句と欠席者投句を合わせて句会を行っています。

●四　季　詠（今年の句会報より）

新　年

初夢や津軽の空の雲に乗る　忠　利

初診療よき血管と褒められて　和　子

初夢や宇宙遊泳夫として　まさ子

木遣唄木霊も和すや初手斧　健　司

春

越境の筍に足取られけり　圭　子

呑み込めず吐きし言の葉涅槃西風　小来川

桃の日や白寿の婦人の紅薄く　勝　美

夏

片陰に入りて顔なき男かな　樹　人

母残し郷を発つ日の花火かな　加名恵

一望の青田を進む選挙カー　民　恵

秋

聞き役に廻り渋柿剥いてをり　かつ子

柱組む木槌の音や菊日和　晋　一

枯蟷螂眼鏡やろうか杖やろか　悟　郎

枇杷の花遠き約束思い出す　節　子

冬

聞き流す言の葉いくつとろろ汁　聆　子

玄冬や父の砥石の置き去りに　逍　遙

読み終へて書き終へてまだ夜長かな　泉　江

石蕗咲くや静かなる日と祈る朝　智香子

● 今年の句会報より

笹藪の鶯より

豊島　悟郎

市の室内温泉プールの北側（我が家の前）にわずかな篠藪があり、以前は青鷺・五位鷺・白鷺等の大群に悩まされたことがありましたが、今は小鳥たちの貴重な集まり場・栖（す）となっています。年間約三十種ほどの探鳥が出来ます。

とくに、ここに住み着く鶯との付き合いは長く、三月の初音から老鶯の八月まで毎日早朝から夕方遅くまで美声を聞かせてもらいます。取分け繁殖期はうるさいくらいの囀りです。又、そこに杜鵑や画眉鳥が加わり賑やかに。

ところが、あれほど懸命に鳴いていた鶯が九月に入ると途端に藪鶯（笹子）と化し、チャッチャッという笹鳴き（地鳴き）に変わり藪中を飛びまわり始めます。この頃になると鵙（もず）の高声が響きいよいよ秋が深まります。

今年の暦もあと僅かになりましたね。

カタカナ語と俳句

林　圭子

外来語がどんどん日常生活に浸透し、新聞にテレビに私たちの会話にごく当たり前に使われています。

リモートの診察受ける春寒し

三月の戦争といふコンテンツ

この句は最近の新聞投句欄に載ったものです。カタカナ語の意味がわからずカタカナ語辞典の利用となる。これらカタカナ語には響きの良い新鮮さを感じます。

スマートさ・語感・リズム・語数など俳句にもってこいの句材となっています。

それにしても未だ文語表現が残っている俳句にカタカナ語がうまく溶けこんでいることは驚きです。

蛍

斉藤　民恵

もう何年も蛍に出合っていない。この季節になると蛍を見たいと強く思うのです。

以前、雑誌で新潟市岩室温泉の開湯三百年祝に鈴木真砂女の句碑を建立したことを知りました。

ここは蛍が湧くように発生するとのことで真砂女が訪れたと。

死なうかとささやかれしは蛍の夜

恋を得て蛍は草に沈みけり

いつか行って見たいと長いこと思っていたのに、随分月日が過ぎ旅行もかなわぬ歳になってしまいました。

奔放に生きた彼女の句ではあるが引きつけられてしまいます。

心のうた

田中　小来川

七つとは数もうれしや福寿草

私の父方の祖母は百五才で大往生した。元は小学校の教員。その祖母が、七人の子供たちに文芸集を残した。

短歌・俳句・詩・エッセイなどを、全て手書きでしたためたものを七冊。私はそれを父から借用し、ワープロで入力・編集してカットを入れ、印刷屋に頼み、五十冊作成して祖母にプレゼントした。

祖母はとても喜んでくれて、それを親しい友人たちに贈ったようだ。

「金もなくものをも持たぬこの母はせめて心のうたを残さん」

で始まる。本のタイトルは「心のうた」とした。

その事は下野新聞の取材を受け、平成八年の朝刊に掲載された。

伯父は「田中来川」の名で川柳を作り、下野新聞へ投稿したり、県の川柳協会で活躍している。私が俳句を始めたのは、祖母の血が流れているからだろうか。

冒頭の俳句は、「心のうた」にあった一句である。

2. 風の会

直篤　正美

● 活動趣旨

私たちの暮らしは四季の推移と深く関わっています。移りゆく季節の中で様々な思いが自然なかたちで私たちに訪れます。ふとした発見、驚き、喜び、違和感、そのように望まずとも無理なく去来する心情です。そうした思いに言葉は目に見える「形」を与えてくれます。加えて他の方々に伝える「働き」を持たせ、そこに詩を吹き込むなら、俳句という文芸が表れます。俳句への向き合い方は人様々ですが、句会は互いの俳句を理解し評価し合う場です。四季の移り変わりの中でそれぞれの体験と実感の裏付けのある俳句の表現はまたそれぞれに異なり、句会は共感、驚き、失意、喜びなど一句の世界を共有できる場であり時間でもあります。季節の推移と言葉そして俳句。

「風の会」はそうした互いの俳句に向き合い高め合う場を心掛ける一方、それぞれの思いを俳句を介して共感できる時間を持ちたいと考えています。しかし、実感と言葉を自分の中で合致させるために、またそのことを伝えるためには、言葉による表現上の技術が求められます。季節の中の言葉に気付き、思いを託し、思いを形にする技術を探す。句会はそうした場と時間であり、句会「風の会」はそのようにありたいと、まずはお知らせいたしたいと思います。

● 活動報告

生涯学習センターにおいて、毎月第二および第四水曜日に俳句を学ぶ自主講座句会として実施しています。現在会員は十四名で、時折り俳句講座あるいは設問形式の俳句トレーニングなどを交えながら、俳句の時間を共有しています。コロナ禍の今、幾度か対面による句会を休止いたしましたが、会員はそれぞれの感じる俳句作りを楽しんでいます。

● 会員近詠（今年の句会から）

むづかしい事など明日へ吾亦紅　　きみ
掛け持ちの宮司着替えて秋祭　　えいた
しぐれ煮を少し辛めに新酒汲む　　かつ子
馬の背を分ける雷雨や降り残る　　かほる
また一人来て肌寒を言ひ合へり　　順子
みの虫の空の遊びを知ってをり　　水葉
どこまでも刈田どこからも茶臼岳　　晋一
生命線見せ合う姉妹敬老日　　雅芳
職安の倒れて咲きぬ秋桜　　ひで子
霜月やゴシック体の店仕舞　　比呂
新しき袱紗のさばく秋の風　　未季
霜月やサイレン尖る救急車　　克美
野朝顔の揺るるたび揺る空に波　　青蛾
割れしぶる毬栗討議中らしく　　正美

3. 秋桜の会

森　加名恵

コロナウイルスが長期化している中、休会もせず何とか通常の句会が開けました。句会会場である大田原生涯学習センター（本部句会）や、佐良土交流センター（佐良土句会）の一室が借りられたことで俳句の灯を消すことなく続けられており感謝の一言に尽きます。

そして、御蔭様で秋桜の会も十周年記念号を十二月に出版することが出来ました。また、今年は本部で十一月に馬頭方面（乾徳寺）を吟行してきました。少人数の参加では有りましたが、お天気にも恵まれ愉しく一日を過ごしてきました。参加されなかった方については事前投句で受け付けました。

● 秋桜の会（本部句会）十一月　吟行作品

物思ふ色づく柿を眺めつつ　　幹子
一人身を風にゆだねて秋惜しむ　　弥生
穂波掻き交はす言の葉秋果つる　　逍遥
置き去りの卒塔婆一本冬の雨　　富子
乾徳寺枯葉帽子の地蔵達　　恵子
見上ぐれば薄日の中の帰り花　　絹女
せせらぎや句碑に寄り添ふ石蕗の花　　和子
冬青空児童の歓声グランドに　　一典
彩りを湖面に写し行く秋ぞ　　佳子

神杉の冬天を突く武茂城址　節子
雨上がる落葉に濡れて禅の寺　耕里
赤色の立木観音春を待つ　さとみ
石段を埋め尽くしてや散紅葉　純子
白藤の枯れて添へ木の傾ぎけり　加名恵

● **佐良土句会（十一月・兼題　秋惜しむ）**

朝霧や墨絵の如き杉木立　義郎
嬰抱きし石仏笑まふ花野かな　清
人の住む里の証や吊し柿　草秋
鳥の声風の音にも秋惜しむ　ゆきえ
鬼婆の岩屋にやさし小春風　ふみ子
柿の実や滝の景色に色をそへ　八重子
プラゴミが木にかかりけり冬近し　隆
独り言聞き耳立てし仔猫かな　敏子
冬もみぢ紙飛行機の着地点　佐くら
金色の光放ちて銀杏散る　明美
外人の石工見習ひ文化の日　晋一
肌寒し友の席空く食事会　（九月）法子
隧道と橋梁続く錦秋路　（九月）誠
癌を経て七十二の秋惜しみけり　加名恵

● **今年の俳句大会の成果**

◎黒羽芭蕉の里全国俳句大会　入賞者（佳作）

中村　和弘　選
廃校のグランドすでに枯れ野かな　郷野目弥生
佐怒賀正美　選
仏壇に日に日に増ゆる蝉の殻　渡邉　純子
靴墨のにおふ玄関風光る　槇　佐くら
速水　峰邨　選
からからと風が葉を追ふ秋の暮　郷野目弥生

◎令和三年度柳まつり全国俳句大会

飯尾婦美代　選　入選
落暉美し植田に絵の具落とすごと　菊實ゆきえ
星田　一草　選　入選
石蕗の花宿坊の窓灯しけり　伊藤　草秋

晩秋の吟行会

上田　耕里

十一月の末に秋桜（コスモス）の会恒例の吟行会が馬頭で行われました。

那珂川町には「日本で最も美しい村」に認定された小砂地区や那珂川沿いの温泉、風情のある街並みの旧馬頭町や旧小川町などがあります。

隈研吾氏が設計した、壮麗な平屋建ての切妻の大屋根を施した馬頭広重美術館（休館）の駐車場を出発し、乾徳寺や静神社、重要文化財になっている飯塚邸など、俳句を詠みながら歩きました。

その日に句会が開かれ、それぞれ皆さんから五句ずつ投句していただき選句に入ったのですが、短い時間の吟行の中で、皆さんが詠んだ句の何とすばらしいことか！

秋桜の会の皆さんが持っている感性や表現力に改めて感激し、十七文字の魅力と奥深さを感じた吟行会でした。

第三十七回大田原文化協会美術展

美術部長　安達　信悟

第三十七回大田原文化協会美術展を十一月十一日から十三日の三日間、那須野が原ハーモニーホールの第一・第二ギャラリー・スロープを使って、美術部の会員の力作一八二点（前年比プラス二十点）の一斉展示を開催しました。

出展内容は従来のグループ参加のほか、個人で創作活動されている一般の方から多数出展して頂き、今回『色鉛筆画』という新たな分野での参加があり、大変好評をいただきました。

来場者は三日間で今年も五百名弱と大変多くの方に大田原の芸術文化を鑑賞して頂きました。

アンケートでは初めて来たという方が二十八パーセントでしたが来場の八十パーセントが高齢者であり、児童や学生さん現役世代・家族づれ世代への文化芸術への更なる啓蒙が必要と思われます。

展示会場・展示方法ではハーモニーホール等での一斉展示が九十八パーセントと圧倒的多数でした。

寄せられた感想では「素晴らしい作品で楽しく、久しぶりに心が癒された、感動した、また来たい」、『日展レベル』の芸術家も展示され感動した。」「トールペイントを初めて拝見し、多くの作品に会えて良かった。自分も挑戦したい」「作者の意図、狙いや書道の文字情報等説明書きがあると更に楽しくなる」「写真の撮影された場所が分かると良い」等々の意見を多数戴きました。

ご協力ありがとうございました。次回以降の参考にさせて戴きます。

今年度は長年に亘り参加いただいたフラワーアレンジメントがコロナ等の影響により教室閉鎖となり残念ながら十名の退会となりましたが、新規入会六名で一四七名と成りました。新しい分野の参加を歓迎致します。

来年の第三十八回文化協会美術展は十一月十日から十二日の三日間、那須野が原ハーモニーホールで開催予定です。より多くの作品と多数の参加をお願い致します。

美術展の開催にあたり文化振興課には大変お世話になり、また、美術部役員皆様のご協力に感謝いたします。

ありがとうございました。

大田原文化協会　美術展の出品数推移

部門	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回
洋画	31	26	20	29	25	31	35
日本画	5	3	2	2	1	2	8
水彩画	12	11	9	17	9	15	21
写真	9	9	10	10	10	10	12
華道	29	25	29	22	12	17	19
色紙画	16	14	15	16	16	17	15
陶芸	16	20	20	16	20	20	23
書道	16	18	17	14	15	15	13
竹工芸	12	13	11	13	15	13	13
工芸	6	6	5	10	7	退会	
彫刻	6	5	5	6	4	10	8
版画・切り絵・鉛筆画		1		2	1	3	4
アレンジメントフラワー	9	10	9	0	0	0	退会
トールペイント				10		9	11
会員展示	158	150	143	157	135	162	182
招待展示	13	11	19	18	0	0	0
合計	171	161	162	175	135	162	182

市長にもご来場いただきました

月落烏啼霜滿天江楓漁火對
愁眠姑蘇城外寒山寺夜半鐘
聲到客船

たかが陶芸、されど陶芸
唯一無二の作品作り

陶芸　油井　正明

ＭＬ工房は、三十年を越える歴史と実績を兼ね備えた唯一無二の陶芸クラブであると自負しています。また、当クラブの会員は、三十代から九十代と幅広い年齢層だけでなく、近隣の市町村に住まわれている方もおられる極めて開かれた集まりでもあります。

陶芸を楽しむということは、食器など（茶碗、花器、コーヒーカップ、皿、置物など）の陶器を作る術を習得し、自分だけの作品を作り上げる喜びを享受することと言えます。

この陶器をつくる陶芸とは、使う素材、作る方法などがさまざまで極めて奥が深い術と言えます。この機会に「陶芸とは」について紹介しますので、陶芸の全体像を感じて頂き、興味を持って頂ければ幸いです。

①　陶器ができるまで

陶器を大きく分類すると、粘土（土）から作られる、いわゆる陶器と、石を砕いたものから作られる磁器があります。当クラブでは主に粘土を使った陶器を作成しています。

薄くて白く冷たい感じがするのが磁器（量販店等で食器として売られているものの多くは磁器です。）、厚みがあって暖かい感じがするのが陶器です。

この陶器の作り方ですが、まずは粘土を使って器や装飾品等の形を作ります。これを成形と言います。この成形された作品を良く乾かし陶芸用の窯で八百度程度で（八時間ほど）焼きしめます。これを素焼き焼成と言います。

この素焼きされた作品に釉薬（水漏れ等を防ぐコーティングのようなもの）を塗り、千二百五十度程度で（約十二時間）焼きしめます。これを本焼き焼成と言います。

これでようやく陶器が出来上がります。

この成形から焼成までには最低でも一か月ほどかかります。

②　成形の術

成形の方法としては、粘土の塊を手で変形し作り上げる玉づくり、粘土の塊を道具等を使ってくりぬいて作り上げるくり貫き、粘土の紐を作りそれを重ね合わせて作りあげる紐作り、粘土の板を作りそれを変形させたり張り合わせることにより作りあげるタタラ作り等があり、それらを総称して手びねり成形と言います。また、電動のろくろを使って成形する電動ろくろ成形や、通常の工房などでは一般的ではありませんが、器の型（鋳型）に泥しょう（粘土を水等で溶かしたもの）を流し込み、同じ形のものを作り上げる鋳型成形等があります。

これらの方法は、作りたい作品に応じて使い分けます。

③　装飾の術

一般的に装飾と言いますと器などに描かれる絵や文字等（一般的には素焼きした作品に陶芸用絵の具を使って描きます。）を思い浮かべると思いますが、陶芸における装飾方法として、

成形時に様々な模様を刻み込む方法等もあります。

成形時の装飾方法としては、削り装飾・組み立て装飾・化粧泥装飾等と様々な術がありますが、全く独自の創意工夫で、しかも独自の道具を使って装飾されているのが一般的です。

④　酸化焼成と還元焼成

一般的にですが、焼成方法には、完全燃焼による酸化焼成と不完全燃焼による還元焼成があります。

釉薬にもよりますが、同じ釉薬を使っても、酸化焼成と還元焼成では作品の風合いが全く違ってきます。例えば、酸化焼成では薄いブルー系になるのに対し、還元焼成では鮮やかな朱色系になるなどです。

⑤　粘土と施釉

私たちが扱う粘土や釉薬には様々なものがあります。

粘土は主に益子粘土、信楽粘土、唐津粘土、備前粘土などですが、それらにも白系粘土、赤系粘土、黒系粘土等様々なものが市販されております。また、近場で見つけた地元の粘土を使うこともあります。

また釉薬にも、赤系、白系、黒系、青系、マット系等様々ですが、同じ釉薬でも使った粘土でも見え方（風合い）が大きく変わります。勿論、釉薬を薄くかけたか厚くかけたか等でも大きく異なりますし、焼成の仕方でも大きく変わります。

⑥　陶芸窯

陶器を焼き上げる陶芸用窯には、電気窯、ガス窯、灯油窯、穴窯、登り窯等があり、どの窯を使うかでも作品の仕上がりは大きく変わります。

当会では、焼き方に創意工夫ができる灯油窯を使っています。

このように、陶芸は自分の創意工夫が存分に生かすことのできる唯一無二のものと感じています。そして、でき上がる作品（実用品、装飾品等）も唯一無二のものと言えます。別な言い方をすれば、全く同じものが作れないと言うことでもあり、それが大きな魅力でもあります。

大田原油絵クラブのご報告

大田原油絵クラブ
蜂巣　貞美

今年度も講師の齋藤勝美先生は、日展に入選されました。私達大田原油絵クラブは総数九名で活動中です。山川喜世三会員は昨年度の県芸術祭美術展で招待を受け無審査出展でした。今年度は二人の会員が県芸術祭で一位二位三位の入賞者の隣に展示され上位の入選を果たしました。これが今年度の成果です。

あと、とてもうれしい報告ですが十二月に小学校五年生の入会がありました。基本から学んで頂くよう先生にご指導をお願いいたしました。将来がとても楽しみで私達高齢の会員も元気を頂いています。コロナが収束しましたら小学生、中学生の入会の問い合わせも入っております。大人の入会希望の方もいらっしゃいまして来年度は必ず十名以上のクラブになっていくのは間違いないと思えとてもうれしく思っています。

クラブとして恒例の出展である西地区文化祭は今年も中止でした。ハーモニーホールでの大田原文化協会美術展と湯津上農村環境改善センターでの那須地区芸術祭美術展は大田原市が当番でしたので久しぶりに全員出展し当番市として協力できました。

また、大田原信用金庫本店ロビーで、令和四年十一月末から令和五年一月上旬まで小品一～二点ずつ展示させて頂き、このことで会員の増強につながりました。大信さんに感謝です。

以上が我がクラブの報告です。

（教室案内）

【場所】大田原市総合文化会館

【日時】毎月第一、第三月曜日

※一、二、三月は第二月曜日

午後五時～九時まで

【会費】月額一、〇〇〇円

小学生から成人の方を募集しております。

お問い合わせは蜂巣まで

☎090-7412-6757

招待作品　山川喜世三　F20号

「水差」山川喜世三　F６号

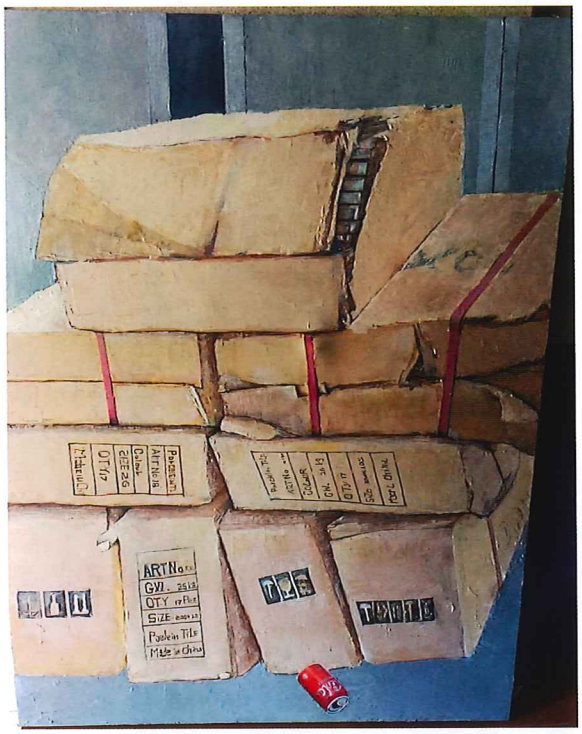
令和４年12月～令和５年1月　大田原信用金庫本店にて

「忘れられたじゃがいも」
岩上知子　F4号

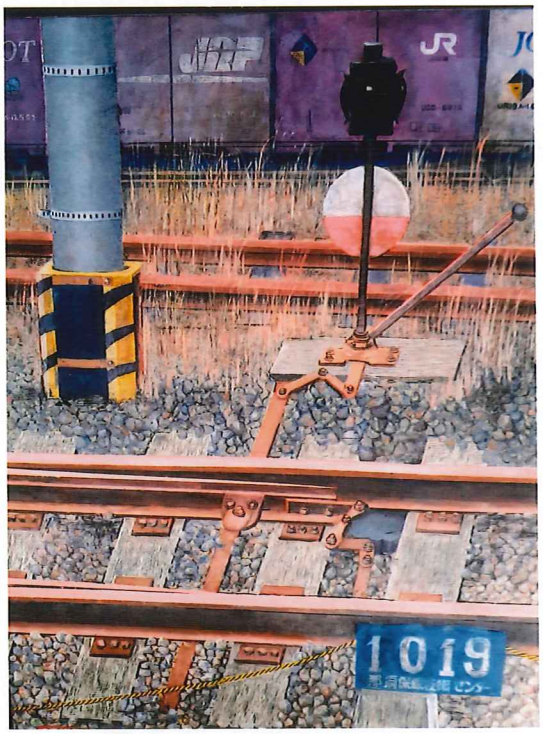
「静物デッサン」
郡司佳勇　F4号

「薔薇」
蜂巣貞美　F6号

日展入選作品　齋藤勝美　F100号



県展入選作品　越沼てつ子　F80号



県展入選作品　蜂巣貞美　F80号

「孫のイス」　瀧野洋子　F30号

「滴」　越沼てつ子　F30号

三年ぶり

竹工芸　阿久津　正弘

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、竹工芸も竹工芸教室をはじめとする制作活動、展示会、竹材準備作業など、従来のような活動ができない状態が続いていました。令和四年度になってから、再開の兆しが見えだし、感染防止策を施しながら活動が始まりました。ここに、主な活動状況をお知らせします。

『全国竹芸展』

令和二年度は、第一回から第二十四回までの入賞作品を全国竹芸展のホームページ上（文末）に公開する『回顧展』を開催しました。人との接触を抑えた方式を初めて採用しました。

さらに、令和三年度には、同ホームページ上に作品を公開する方式の『Ｗｅｂ作品展』を開催しました。現物を確認できないため賞の選定などを行わないものとなりました。

このようにして、コロナ禍においても竹工芸の活動を絶やさぬよう関係者のご協力のもとで活動を続けてきました。

そして、令和四年度を迎えて『今年も中止?』との声が聞こえる中、制約付きでも現物がみられる展示会を実施することが役員会、実行委員会で決定しました。

感染防止策を具体的にどのようにすべきか準備に多くの時間を要しましたが、多方面の実施例などを参考にして開催できました。

来場者の流れが滞留されない動線（ルート）の明示、滞留の原因となりえる資料等の掲示中止、実演コーナーの縮小、受付の入退室のルート分離、即売会場の対面シート設置、手指消毒・体温確認など。どれも初めての対応でしたが無事終了できました。関係された皆様に感謝いたします。

三年ぶりの現物展示の竹芸展でしたが、作品数は、コロナ禍の影響により前回より減りましたが同等数が出品されました。

また、会場入り口と受付通路に展示したオブジェ（人間国宝勝城蒼鳳作）は、来場者を惹き付けて好評でした。

今回は、二十五回目になりましたが竹工芸に魅せられた作家と作品を楽しんでいただける皆さんが大勢いることもわかりました。　末永く続けられるようしていきたいと思います。

『那須地区芸術祭』工芸部門展示

会場　湯津上農村環境改善センター
会期　十一月二十六日～二十八日

那須地区芸術祭が三年ぶりに開催されました。今回は、那須町から大田原市になりました。

工芸部門は、コロナ禍の影響もあり、活動中止、廃止などで出品数の減少が心配されましたが予定した展示コーナが埋め尽くされました。来場者も前回を上回り四百八十一名でした。来年度も同じ会場ですので皆様のご来場をお待ちしております。

また、作家の皆様の力作をお待ちしております。

※竹工芸：二十五点　篠工芸：十二点　その他：四点。

『大田原文化協会美術展』竹工芸

美術展への出品は、感染リスクを配慮した市役所二階の市民ギャラリーでの展示、ハーモニーホールでの展示などで三年間が過ぎました。

今年度もハーモニーホールに出品できましたので来年度も皆さんの力作が展示できるようにしていきたいと思います。

『新年度にむけて』

竹工芸の制作は、材料伐採から始まります。例年、竹の水揚げが止まる十一月から十二月前後の休眠期間に行います。竹林に入り、枯竹など竹林整理もかねて行います。節間（稈長）が長く、まっすぐ伸びている竹を選別することから始まります。水分を含んだ竹は、重いので体力が必要な作業ですが楽しいひと時です。

さらに伐採した竹は三か月程度陰干しし、竹の油分を除去し、腐ったり虫がわいたりしないように例年三月上旬に「油抜き」をします。そして、自然乾燥後に完了。

今年ももうすぐこの季節がやってきます。今度は、どんなものを作るか?編み方は?などなど構想を立てますがイメージしたものはなかなかできないものです。

今後もこの力強く生きる竹との出会いに感謝しつつ暮らしに使える実用品や工芸品を作っていきたいと思います。

竹工芸をやってみたい方は、文化協会の募集資料をご覧ください。

注：全国竹芸展ホームページ
https://chikugei.jimdofree.com

全国竹芸展　展示会場入り口
オブジェ展示

全国竹芸展
受付　入退出ルート分離
オブジェ展示

全国竹芸展　展示会場

全国竹芸展　即売会場
感染防止処置を施して

『那須地区芸術祭』工芸部門展示

『大田原文化協会美術展』竹工芸コーナー

伐採前に竹林整理
※許可をいただいて実施

稈の長く真っすぐな竹を選定
見分けるのも経験が必要

湿式法（湯晒し）による油抜き作業
竹の油分を除去

『脱兎の如く』コロナ去れ!!『健康寿命百歳を目指して』

色紙水彩画　君島　真二

「コロナ禍」は本年にて撲滅し万人がマスクなしで本来の健康の到来を願いたい。

さて、絵画教室では、色紙以外の大きい画用紙等を描画する事も弾力的に考慮して採用した。

本年は各種作品展（銀行・官公庁・ハーモニーホール等の館内での作品展）に出品したり、美術館の鑑賞なども多くしたり、会員のやる気と視野の広い描画を奮起させるようにしてきた。

さて、最初の作品展は大田原信用金庫本店内で六月十二日より八月二日迄、二十点の展示だった。土日、祝日と三時以降は館内には入館できなかったが、概ね鑑賞した人は少人数でも好評であった。決められた会場でなくても文化的価値のある描画は市民の美的感覚の向上になる。

大田原信用金庫本店内

鑑賞会は十月二十五日午前中の「さくら市ミュージアム」の春の院展の鑑賞が素晴らしかった。

さくら市ミュージアム

昼食は、近くの美味しいラーメン店で舌鼓を打ったりして帰路に着いた。

日本画もいいものだ!!

院展は、画法が洋画との違いが明白のようだが、大いに参考になった。三月にも四名で栃木日展作家展を鑑賞してきた。大田原の齋藤氏の作品は八回も入選しているので大田原の描画の価値が高いのに驚嘆した。

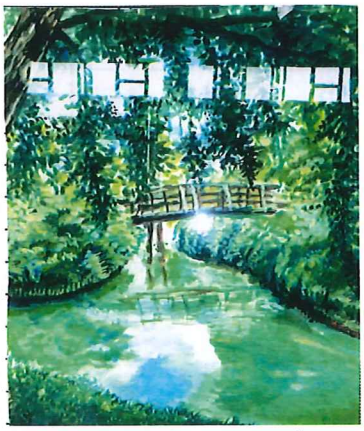
第三十七回大田原文化協会美術展（那須野が原ハーモニーホール）十一月十一日より十三日迄「色紙水彩画」はスロープに展示された。

十六点の個性的な絵だ。好評で多くの人々が良くやったと感嘆してくれたようだ。

小さい色紙だが、巧拙関係なく楽しく喜びながらの画友達の姿が絵の中に現れていたと思われる。

那須地区芸術祭展示会場

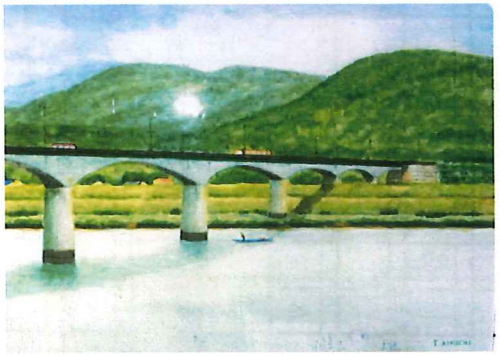
出展は初めてだが、大田原市で本年、次年度と那須地区芸術祭が開催される事になった。大田原市・那須塩原市・那須町合同の芸術祭だ。大田原市の山下氏が担当で、絵画教室の水彩画の出品を依頼されたので、希望者六名の色紙画等を出品した。（十一月二十六日より二十八日迄の三日間、湯津上農村環境改善センター）



「鶯谷公園」　千葉いずみ

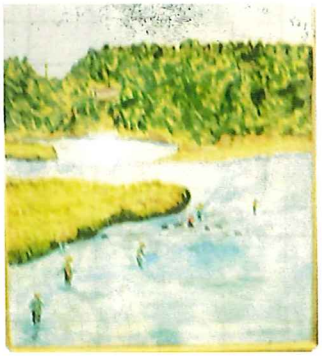
芸術祭出展者と作品（6名）

「桜のとき」鐘ヶ江由美子



「四万十大橋」（四国）　菊地孝了

「なかがわ水遊園」　小松照男



「鮎釣り」　松田信義

「いわき市小名浜港・漁船」　君島真二

〝健康寿命百歳を目指して〟

令和五年（二〇二三年）二月一日より二月二十八日迄、トコトコおおたわら一階エントランスショーケース内にて十五名による「大作品展」を開催し、一人二点（兎絵・自由画）の色紙画の作品を展示した。

本年で五回目となるこの会場での作品展は好評で、描画し甲斐がある。画友や観客の生きる道を与えるようになりたいものだ!!

みず絵会は五十年

みず絵会　滝沢　年子

昭和四十二年四月、大田原ドレスメーカー女学院にて、月二回土曜日に村上源太郎先生にお願いして始まりました。

大田原市婦人部からです。その時の名称は「すみれ会」です。その後、大田原市総合文化会館に移りました。

先生方も村上洋二先生、野中先生、高野先生、津國先生となり、会員は三十名程でしたが、今は十名程でやっております。

展覧会は十一月に大田原文化協会美術展、那須地区芸術祭、三月に那須野が原公園緑の相談所で開催しました。西地区文化祭はコロナ禍のため中止でした。

五十年の間は、親の介護、主人の病気で絵も描けない時もありましたが、先輩たちの会を何とか残したいと考えています。

お花と出会い

華道　増子　梢風

昔から花千杯と言うたとえがあります。

これは一人前に花を挿せるようになるには、少なくとも千杯活けなければということです。

千杯となると、毎日一と活けつづけても三年余りかかります。毎週一回活けつづけても二十年余りかかります。

二十年は長いようだが続くだろうか…。長い年月お花とともに終身稽古と心得て、真の向上も上達したいものです。

又ある時はお花と喜び、又ある時は慰めあって華道に精進し技術を習得し草木花に親しみ、自己の精神を修養し礼儀、品性を高め優雅にしたいものです。

安心して お茶会ができるのはいつ

茶道部　瀬尾　清子

コロナ、コロナで令和四年も終わりに近づいてきました。

茶会も三年間、開催しておりません。これではいけないと思いつつ、コロナはやはり「コワイ」です。

お茶会を開いている先生方は、飛沫防止のための透明シートをお客様との間に使用したり、間隔をあけて着席してもらったり、お菓子の提供の仕方も皆、工夫しているようです。

又、お茶碗をどの様に洗い清め、扱うかという点でも工夫が必要です。

早く安心してお茶会が開けるようになれば良いと思います。

盆栽園芸部門

盆栽・園芸部長　平山　正彦

令和四年度の盆栽園芸部門の活動は、新型コロナウイルス感染症が一向に収まらない状況に昨年度と同様な活動になったが、令和四年度は那須支部が創立五十周年の節目の年ということで記念すべき年であるため、記念行事を計画していた。

例年一月に開催していた総会は、「書面表決」方式により実施し、二月に東京都美術館で開催された第九十六回国風盆栽展見学も見送った。

このような状況下であったが、昨年度実施した那須野が原公園展示場での大田原盆栽勉強会との共催による夏季盆栽展を実施した。

会期は七月八日（金）から十日（日）までの三日間、支部会員十八席、勉強会二席の二十席で開催した。出展内容は、那須五葉松を主とした松柏類が一番多かったが、ヤマモミジなどの雑木類が夏らしい盆栽展の雰囲気を高めていた。そんな中でネムノキの盆栽がピンクの花を咲かせて人目を引いていた。また草物盆栽の棚飾りもこの季節ならではの装いを発揮していた。

夏季盆栽展の次は、十月十七日（月）から十九日（水）までの三日間、那須支部創立五十周年記念盆栽展を同じ那須野が原公園展示場を会場に開催した。盆栽展開催に相応しい十月中旬に計画したが、金曜日から日曜日までの三日間の開催がベストであるが、他の団体が行事を計画していて残念ながら取れなかったため、次善の策として月曜日から水曜日までの三日間となった。

出展内容は、那須五葉松が

十二席と一番多く、国風盆栽展に出品された石付カエデやロウヤガキなどの雑木類が五席、その他五席の計二十二席だった。

創立五十周年記念盆栽展ということで、日本盆栽協会から理事と事務局長がお祝いと取材に来てくださった。また栃木県支部連合会の宇都宮支部長も見えられた。日本盆栽協会機関誌の「盆栽春秋」十二月号に取材記事が掲載された。また、下野新聞にも「五十周年記念展」の見出しで記事が掲載され、来場者増加に一役担ってくれた。

記念盆栽展が終了した十一月七日（月）に那須支部創立五十周年記念祝賀会を那須野ヶ原ベルビューホテルで開催した。支部会員約半数の十九名が出席した。五十周年のお祝いということで多くの会員の出席を期待したが、会員の高齢化という現実は先の記念盆栽展の出展状況と同様な結果となっている。

創立当時は、会員数百数十名という大組織で、盆栽技術の研修、交換会、親睦研修旅行等活発な活動を行っていたが、年月の経過と共に高齢化が進み、会員数の減少が顕著となり、追い打ちを掛けるように新型コロナウイルス感染症の発生により、活動が制約されてしまった。

創立五十周年を迎えた今後は、現在の組織の維持が最大の課題である。

ステージ部門活動報告書

ステージ部門長　花柳　喜乃治

今年も十二月四日（日）大田原文化会館にて歳末助けあい市民芸能大会を開催致しました。コロナの影響などで参加団体が少ない中、吟詠・剣詩舞・日本舞踊・新舞踊・ハーモニカ演奏など、参加された皆さんは、日頃の練習の成果を発表されました。市民芸能大会も来年は六十回と節目の会になります。多くの皆様に楽しんでいただける様に会員一同また一年精進していかねばと思っております。

私も諸先輩より受け取ったバトンを次の世代に繋いでいける様に大田原市の文化芸能を盛り上げていきたいと思います。

第59回大田原市民芸大会

出演順	種目	曲目	出演者
1	郷土芸能	大田原小唄	ステージ部有志
2	舞踊	清元　北洲	花柳　福乃治
3	舞踊	那須の雨	鈴木　圭子
4	ハーモニカアンサンブル演奏	月の砂漠 亜麻色の髪の乙女 瀬戸の花嫁	サークル全員
5	剣舞	金剛山	田中　風月
6	日舞	清元　梅の春	花柳　喜乃治
5分入れ替え休憩			
7	剣舞	名槍日本号	山田　和子 神田　喜美子 井上　京子 小林　千恵子
8	舞踊	細雪	渡部　秀子
9	詩舞	青葉の笛	直井　優奈
10	詩舞	和歌・淡路島	岡崎　草月
11	郷土芸能	黒羽小唄	ステージ部有志
5分入れ替え休憩			
12	郷土芸能	那須小唄	ステージ部有志
13	吟舞	長唄　娘道成寺	花柳　喜乃美陽
14	吟舞	吾妻鏡より 和歌二題	詩舞 金田馨月 兼崎松月 吟詠 田中竜真

出演順	種目	曲目	出演者
15	詩舞	和歌・東風吹かば	佐藤　秀月
16	日舞	常磐津　廓八景	花柳　楓乃
17	郷土芸能	那須湯もみ唄	ステージ部有志
10分入れ替え休憩			
18	郷土芸能	那須音頭	ステージ部有志
19	詩舞	生田に宿す	榎井　煌月
20	剣舞	古城（吟入）	山田　和子 神田　喜美子 井上　京子 小林　千恵子
21	日舞	長唄小曲　松の緑 潮来出島	高戸　わかな
22	吟舞	潮来の夕	詩舞 喜佐見倖月 喜佐見澄月 吟詠 田中竜真
23	剣舞	和歌・身はたとえ	三浦　恵月
24	舞踊	女のかがり火	泉　喜和乃
25	郷土芸能	与一音頭	ステージ部有志

剣詩舞道

遊月流吟舞会恵月会

三浦　恵月

現在のステージ部門は切ない限りです。今年の歳末助け合い市民芸能大会は、二十五番組の開催でした。

昭和六十一年大田原市文化協会設立総会当時、ステージ部は、四七〇名、バラエティ溢れる会員が揃っていました。

大田原は、城下町で穏やかな町です。古風を好み、愛おしい心をもって次世代に繋げてくださったような気が致します。

今、様々な角度から見ますと、日本伝統文化的なものは、影が薄く、難しく考えられ入りこめないのかもしれません。

それから、大田原市総合文化会館が十二月に閉館されることは、ステージ部門において大打撃です。随分と活用させて頂きました。

五十数年前、大田原市総合文化会館は北部地区では最初の会館でした。わが流派も発表会を開催、宇都宮から北那須まで会員が集まり、大会を開催いたし誇らしく思えたことを記憶しています。

クラシックな芸能は好まれないのか?様々な悪条件に立ち向かいながら在籍しているステージ部門の私たちは、支えあいながら踏ん張っているところです。会員増員、後継者育成等に模索中です。

宝生流謡曲（うたい）

大田原宝友会　蜂巣　貞美

私達、大田原宝友会は戦後すぐに立ち上げ七十年以上の歴史を持っています。しかしながら永年ご指導頂いておりました教授嘱託の中村弘平先生が昨年急逝され講師不在になってしまいました。やむなく解散という瀬戸際に瀕しましたが、宮地巌会員、高木秀子会員のご苦労で東京で活動なさっている能楽師の前田尚廣師に師事できることになりました。プロの先生ですので、講師謝礼の関係で退会していた二名の参加協力を得て賄うことができ、令和四年一月から新しく出発することができ大変うれしく思っています。

能は歌舞伎や文楽と並び日本の古典芸能を代表するものです。庶民の娯楽から生まれた歌舞伎などとは異なり、権力の庇護により発展してきた能はいささかとっつきにくいと思われています。曲目は二百を超えますが、「遊行柳」と「殺生石」は那須町を舞台にし黒羽の玉藻稲荷神社も関わっています。もっとすごいのは「鉢の木」という曲は佐野市が舞台で今、大河ドラマでやっている「鎌倉殿の十三人」の登場人物、鎌倉幕府の執権北条時頼が身分を隠し、貧しい家に一夜の宿を求める。家主の佐野源左衛門は囲炉裏の薪が足りずに大切にしていた盆栽を燃やしてもてなしたという話です。美しい民話を育んできた栃木県のそして私達の住むこの那須の地を自慢に思いたいものです。

私達の大田原宝友会の今年の参加発表会のご報告をいたします。

九月四日、栃木県文化センターで栃木県宝生会ゆかた会に、十一月十三日、西那須野公民館で那須地区芸術祭に、十二月四日栃木県文化センターで栃木県芸術祭謡曲大会に参加いたしました。これからも稽古に励み発表会に参加したいと思っています。

仲間を募集しています。教室の概要を記します。

【場所】GUNEI三島ホール
【日時】第一、第三、水曜日
　　午後一時半～四時
【月謝】基本的に八、〇〇〇円
　お問い合わせは蜂巣まで
☎〇九〇-七四一二-六七五七

とらふの駒の歩の心

大田原市将棋愛好会
矢板　清勝

大田原市将棋愛好会も六十五年になりました。新型コロナウイルス感染症対策のためマスク、手洗い、消毒をして将棋を指しています。

市内の小中学生が今年の夏休みに来て、会員の方と将棋を指して楽しく過ごしました。

将棋を覚えると正しい事が出来るようになる集中力と思考力が身につきます。歩心を大切に。

大田原市黒羽向町のホテル花月で令和五年三月二十五日（土）、二十六日（日）に第七十二期ＡＬＳＯＫ杯王将戦七番勝負第七局が開催される予定となっています。藤井聡太五冠王将に羽生善治九段が挑戦します。市内の将棋ファンにも最高の楽しみです。

大田原文化協会事務局より

(1)文化協会事業報告

令和4年
4月15日
会長・副会長会議
（総合文化会館）
4月26日
理事会
（総合文化会館）
5月23日
評議員会
※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、書面議決
7月8日～10日
夏季盆栽展
（那須野が原公園）
9月12日
会報編集会議
（大田原市役所）
10月17日～19日
創立50周年記念盆栽展
（那須野が原公園）
11月11日～13日
美術展
（ハーモニーホール）
12月4日
歳末助け合い市民芸能大会
（総合文化会館）
令和5年
1月23日
会報編集会議
（総合文化会館）
2月27日
会報編集会議
（総合文化会館）

(2)会員加入状況

大田原文化協会の令和5年2月末日現在の会員数は31団体で319名となっています。

(3)各部事業費の配分について

専門部	納入者数（A）	納入金額（A×500円）	配分額（A×800円）
文芸	63	31,500	50,400
美術	146	73,000	116,800
ステージ	70	35,000	56,000
囲碁・将棋	6	3,000	4,800
盆栽・園芸	30	15,000	24,000
茶道	4	2,000	3,200
合計	319	159,500	255,200

(4)役員名簿

大田原文化協会　令和4年度役員一覧

No.	役職	氏名	専門部	構成部門
1	会長	田中和夫	ステージ	吟詠
2	副会長	安達信悟	美術	彫刻
3	〃	矢板清勝	囲碁・将棋	将棋
4	〃	西宮詔夫	美術	洋画
5	〃	藤沼久子	文芸	短歌
6	〃	平山正彦	盆栽・園芸	盆栽
7	会計	望月洋子	ステージ	三味線
8	〃	丸山昭喜	美術	陶芸
9	理事	川上鳴石	美術	書道
10	〃	金沢裕司	美術	写真
11	〃	花柳喜乃治	ステージ	日舞
12	〃	瀬尾清子	茶道	茶道
13	〃	滝沢年子	美術	水彩画
14	〃	井出賢	美術	竹工芸
15	監事	西川しず子	ステージ	日舞
16	〃	蜂巣貞美	美術	洋画

専門部

専門部	役　職	氏　名	構成部門
文芸部	部長	藤沼久子	短歌
	副部長	中山逍遥	俳句
美術部	部長	安達信悟	洋画　彫刻　日本画　水彩画
	副部長	西宮詔夫	華道　書道　写真
			工芸　竹工芸　陶芸
ステージ部	部長	花柳喜乃治	吟詠　民舞　演劇
	副部長	望月洋子	剣詩舞　日舞　邦楽
			ダンス　洋舞　洋楽
			郷土芸能　コーラス　民謡
			民俗芸能　謡曲　新舞踊
囲碁・将棋部	部長	矢板清勝	囲碁　将棋
盆栽・園芸部	部長	平山正彦	盆栽
	副部長	伴　敏美	
茶道部	部長	瀬尾清子	茶道
広報部	部員	藤沼久子	文芸部（短歌）
		飯島健司	文芸部（俳句）
		越沼てつ子	美術部（洋画）
		岩上知子	美術部（洋画）
		阿久津正弘	美術部（竹工芸）
		平山正彦	盆栽・園芸部（盆栽）

編集後記

広報部に、新しいメンバーとして文芸部（俳句）の飯島健司さんが参加してくれました。広報部一同、大変心強い思いです。

昨年に引き続き、本年も広告の掲載をお願いしたところ、多くの団体・企業から協賛がありました。心より感謝申し上げます。

コロナ禍も三年を経過しましたが、未だに収束を見ることはできません。しかしながら徐々にではありますが、文化・芸術活動も戻って来ているようです。

玉稿をお寄せ頂きました皆様、またお骨折り頂きました文化振興課の皆様に対し、敬意と感謝を申し上げ編集後記と致します。

（広報部）

令和４年度広報

令和４年度
会報「大田原文化」第３１号

発行日　令和５年３月31日
発行者　大田原文化協会
　　会長　　田中　和夫
編　集　広　報　部
事務局　大田原市教育委員会事務局文化振興課
電　話　0287-23-3129
印　刷　株式会社　松井ピ･テ･オ･印刷